



ながた しげき

◆診療科紹介 皮膚科 永田 茂樹

当院は女性と子供にやさしい病院です。当科は現在、女性医師と初老の男性医師の2名体制で男性と高齢者にもやさしい科を目指しています。ともに専門医を有しており、皮膚科全般の診療には高い水準を有していると自負しています。1名は褥瘡をはじめとした創傷、皮膚潰瘍や皮膚病理、血管炎が専門であるので、看護部、栄養科、薬剤部、内科、形成外科にも協力していただき、チーム医療を実践している数少ない皮膚科でもあります。重症の入院管理は困難であり、昭和大学病院に救急車にて転送させていただいているのが現状です。他の本学附属病院と同様の常勤医5～6人での診療体制の実現を目指し、調整中であります。病診連携、救急応需、重症患者さんの入院などに対応できないことが多く、各方面にご迷惑をおかけしていますことを深くお詫び申し上げます。皮膚科はアナフィラキシーや重症薬疹などの救急車要請が必要な疾患



昭和大学江東豊洲病院

第11号のトピックス

- ・ 診療科紹介
 - 皮膚科 —
 - 歯科・歯科口腔外科 —
- ・ 東京マラソン ボランティア
- ・ 部門紹介
 - 臨床工学室 —

も対象になりますが、蕁麻疹や接触皮膚炎、皮膚感染症、湿疹・皮膚炎の重症化、やけどなどがゆいとか痛いといった我慢できない症状が突然起こる「救急でない急性疾患」も多いのが特徴で、日々の診療において治療に苦慮することも多々あります。できる限り早急に対応すべく努力いたしますので、遠慮なくご相談いただければ幸いです。よろしくお願いいたします。



わたなべ ひとし

◆診療科紹介 歯科・歯科口腔外科 渡辺 仁資

【主な対象疾患】

埋伏歯などの難抜歯
神経疾患
嚢胞性疾患
炎症性疾患・感染症
外傷性疾患
腫瘍性病変
顎関節疾患
唾液腺疾患、粘膜疾患
先天および後天異常
歯科補綴関連手術

歯科・歯科口腔外科は昭和大学江東豊洲病院新規開院に伴い設置された診療科です。

当科は、歯科医師2名と歯科衛生士2名の計4名が勤務しており、ほぼ毎日交代制で診療しております。診療内容は、地域医療機関から口腔に関連する特殊な疾患を完全紹介型として診療する「歯科口腔外科」と、医科入院患者さんの口腔内トラブルや医科歯科連携による口腔内管理を中心とした「歯科」の2つの診療に従事しております。まず、「歯科口腔外科」の診療内容は、別表に示す通り顎口腔領域に発症する疾患を対象としています。これらの診療は、主に外来通院で行いますが、全身麻酔で

の手術など処置内容が困難な方やお体の病気や外科治療に恐怖心のある方は当科で入院しながら診療を受けていただく事も出来ます。また、口腔外科治療をリラックスして受ける事ができる補助診療として、静脈内鎮静法も行っており、歯科麻酔科医と連携して積極的に取り入れております。次に、「歯科」診療は、医科入院の患者さんの虫歯、歯周



歯科・歯科口腔外科スタッフ

病、義歯の不具合などに対してできる限り症状を緩和し、入院期間中安心してお体の病気の治療に専念していただくためのサポートをしています。さらに、今後は医科主治医の先生方や看護師さんと医科歯科連携を行い、チーム医療の構築・実践も行って参りたいと思います。

当科は、少人数ではありますが皆様からのご支援を賜りながら、口腔の管理から健康維持に貢献して参りたいと思いますので、これからもよろしくお願いたします。



東京マラソン2015 ボランティア

平成27年2月22日に行われた東京マラソン2015（第9回）において、例年通りボランティア活動を今年はIHI本社前スペースにて行いました。

当日は、52名のスタッフが参加し、ストレッチ、マッサージ、テーピング、消炎スプレー作業を行い、ホットタオルとドリンクの作成、提供を行いました。

今年は例年より多い200名を超えるランナーが立ち寄り、ランナー全員が競技復帰し、数名の方からは「ありがとうございます。」と疲労困憊にも関わらず感謝のお言葉を頂き、大きな喜びと感動を受けました。



◆部門紹介 臨床工学室 大石 竜

臨床工学室は、院内医療機器の修理や保守点検および貸出し体制の一元管理をはじめとする集中管理を行い効率的・効果的運用を目標とし、開院と同時に設置され7名の臨床工学技士でスタートしました。現在は、管理医療機器の増加や治療補助業務の多様化による業務量の増加に伴い、総勢11名の臨床工学技士で構成されています。



業務内容は、呼吸、循環、代謝に関わる生命維持管理装置の操作などの治療補助や各種医療機器の保守管理を行い、病院全体の危機管理システムの一旦を担っています。また、夜間帯での緊急時やトラブル等にもオンコール体制にて24時間・365日対応しています。特に臨床支援部門では、血液浄化装置、人工心肺装置の操作および心臓血管カテーテル室での治療補助業務を行い、チーム医療の一員として患者さんへ最新、最良の治療を安心、安全に提供できるよう、日々研鑽に努めております。

おおつか なおき

編集後記 大塚 直樹

最近の豊洲地区の発展はめざましいものがあります。私が旧豊洲病院に勤務していた10年前とは雲泥の差です。スクラップ・アンド・ビルドとはよくいいますが、現在の豊洲地区はビルド・オンリーと言っても過言ではありません。当院も約1年前の開院からビルドを積み重ね、なんとか病院としての体を成すようになりました。これからもビルドを積み重ねて皆様の御期待に応えることができるように努力してまいりたいと思います。